

# 桜生工

日本大学生産工学部 校友会誌 | 2024 vol.54

校友会は、いつまでも卒業生とのつながりを大切にしています。



# CONTENTS

---

●日本大学生産工学部 校友会会長 梅谷純生 ご挨拶 .....	P1
●日本大学生産工学部 学部長 澤野利章 ご挨拶.....	P2
●第46回 鳥人間コンテスト・滑空部門出場結果報告 .....	P3
●第17回 風力発電コンペWINCOM2024 .....	P4
●2025年度 キャンパスガイド表紙デザインコンペ最優秀賞決定! .....	P5
●令和6年 代議員総会報告 .....	P6
●第38回 日本大学工科系校友会連絡会.....	P7
●母校を訪ねる会 .....	P8
●在校生紹介	
機械工学科 蘇 梓陽 .....	P9
電気電子工学科 小林 陽太.....	P10
土木工学科 鈴木 御和子	
建築工学科 府金 詩子.....	P11
応用分子化学科 安東 桃花	
マネジメント工学科 齊藤 光平 .....	P12
数理情報工学科 藤井 和希	
環境安全工学科 伊藤 万莉恵.....	P13
創生デザイン学科 岸井 陽香	
●学科ニュース	
機械工学科 .....	P15
電気電子工学科	
土木工学科.....	P16
建築工学科	
応用分子化学科 .....	P17
マネジメント工学科	
数理情報工学科 .....	P18
環境安全工学科	
創生デザイン学科.....	P19
教養・基礎科学系	



## 日本大学生産工学部 校友会 会長 梅谷 純生

校友の皆様におかれては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、日頃は校友会活動にご理解とご協力を頂いておりますことを深く感謝しております。

さて、生産工学部においては、澤野利章先生が学部長に再任され、新たなスタートがされ、また、私自身も生産工学部校友会の会長を拝命し一年が経過しました。校友会本部においても大谷喜一会長を迎え、改革を目指した新しい体制による日本大学全体の校友会活動が二年目を迎えています。

社会においては、現在、コロナウイルスも第5類へ移し一年が経過し以前の社会活動・様々な行事への制限が解消されております。

そして生産工学部校友会に於いても、6月には来賓の皆様を招いた代議員総会を、コロナ前と同様に市川グランドホテルにて行うことができました。また、工科系校友会(理工学部・工学部・薬学部・生産工学部の各校友会)の連絡会が生産工学部・津田沼校舎にて、五年ぶりに来賓の方々を招いて行われ、活発な意見交換が成されました。

今後も校友会活動として、学生支援を目指し、母校の在学生たちが学びを続けることができる環境を整えるために奨学金の給付、学生が主催するイベントである「桜泉祭」及び併せて行われる風力発電コンペ等への支援を行ってまいります。

また、卒業された校友の皆様には、前述の「桜泉祭」時に「母校を訪ねる会」を開催し、懐かしい教

職員との懇談や旧交を深めるための催しを実施してまいります。

その他、キャンパスガイド表紙コンテストの審査と助成、新入生や優秀卒業生への記念品贈呈等を校友会事業として行ってまいります。

私自身も、皆様と共により良い未来を築いていくことを楽しみにし、今後も、校友会活動を通じて母校の発展及び校友の皆様のために尽力する所存でありますので、倍旧のご理解、ご指導、及びご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、校友の皆様の、より一層のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。



## 日本大学生産工学部

### 学部長 澤野 利章

校友の皆様におかれましてはますますお元気にご活躍のことと、心よりお慶び申し上げます。日頃から生産工学部の教育ならびに運営に関しまして、ご理解と多大なご協力、そして物心にわたる温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。心よりお礼申し上げます。大学本部においては2024年度4月から大貫進一郎新学長をはじめ3名の新副学長と林 真理子理事長、他4名の常務理事による新体制において、信頼の回復に向け、管理運営体制を重点課題としてスタートいたしました。改革途中段階にあり、まだまだ校友の皆様にも多大なご心配とご迷惑をおかけしておりますことを、生産工学部を代表して改めてお詫びいたします。

生産工学部は大学院・学部の新入生1,839名を迎えてスタートいたしました。新入生を加えて、合計6,988名がキャンパスに集い、日々講義、実験・実習に励み充実した学生生活を送っております。また授業のみならず、友達付き合いやサークル活動における学生間の交流も活気に満ちあふれております。

校友の皆様にご支援いただいております各種行事も変わらず実施されております。学園祭時に開催される風力発電コンペ、学生が日々利用するキャンパスガイドの表紙コンテスト、留学生研修イベント(バーベキュー大会)、桜泉祭、母校を訪ねる会などへの学部行事、入学生や優秀卒業生への記念品贈呈、鳥人間コンテストや優勝運動部をはじめとした学生の部活動などへの活動費補助、等々で多岐にわたります。ここにご報告申し上げ

るとともに重ねてお礼申し上げます。

新カリキュラムは3年目を迎え、エクスペリエンスとリベラルアーツのサイクル(EL CYCLE)を繰り返して回すことにより、「自ら考える力」と「自ら学ぶ力」を身に付け、それらを「経験」することにより専門分野に応用できる技術者の育成を継続しています。合わせて学科横断的なGlo-BE、Entre-to-Be、Robo-BE、STEAM-to-Be、少数精鋭起業支援プログラムなどの教育も推し進めて参ります。一方で校友の皆様も履修のご経験のある本学部の特徴的科目の「生産実習」が、経済産業省、厚生労働省、文部科学省、日本経済新聞社、マイナビが後援する「第7回学生が選ぶキャリアデザインプログラムアワード」(応募総数: 1,013法人・1,115プログラム)において、高く評価され優秀賞を受賞いたしました。本アワードは学生の社会的・職業的自立に貢献したインターシップやキャリア形成支援に係る取り組みを表彰するアワードで、プログラムの質的向上が認められたものです。これらにより高度なテクノロジーだけでなく、倫理観や美意識、構想力といったリベラルアーツと職業観涵養の取り組みなどの高度な実践的教育を行ってまいります。

最後になりますが、学生へのご支援には生産工学部校友会会長ならびに各部会、幹事の方々をはじめとした校友会役員そして多くの校友の皆様のご理解に感謝申し上げますとともに、今後も校友会、卒業生の皆様には生産工学部発展のため、ご支援、ご協力を賜りたく、心よりお願い申し上げます。

## 第46回 鳥人間コンテスト・滑空部門出場結果報告

2024年の大会は、7月27日と28日の二日間に  
行われました。滑空機部門でまだ学生がなしてい  
ない500m以上の飛行を実現することを目標  
に掲げて臨んだ大会でした。そのために、今年  
の機体製作では様々な新しいことに挑戦しまし  
た。例えば、主翼桁構造の変更、ピトー管の採用、  
対気速度モニタの搭載、水平尾翼・垂直尾翼の可  
動化、操縦桿の採用、コックピットハッチの可  
動機構変更、コックピットの製作方法変更など  
です。欲張りすぎたのかもしれませんが。大会  
当日、計画通りに動作したのもあれば、そう  
でなかったものもあり、新しいことに挑戦す  
る難しさを感じることもありました。

飛行順は3番目で、早朝のテイクオフでした。  
例年通り、この時間帯は風が弱く、揚力が得  
にくいため、慎重にテイクオフを行いました。  
このような風

の状況は500m以上の滑空はなかなか望めな  
いのですが、初飛行のパイロットにとっては実  
力が発揮しやすい状況なので、学生記録更新  
が期待されました。しかしながら、テイク  
オフ直後の機体加速時に操縦桿が破損し、機  
体の姿勢を水平に保つことが不能となり、着  
水してしまいました。滑空記録は49.07mで、  
順位は13位という結果となりました。

多くの反省点を残す大会となりましたが、自  
分たちのアイデアを色々試せたことが大きな  
収穫でした。将来に繋がる良い経験ができた  
と考えています。

来年も優勝を目指して頑張ります。応援を  
よろしく願いたします。

津田沼航空研究会 顧問 野村浩司



プラットフォームから飛び立つAkito



不安そうにテイクオフを見守る応援団

## 第17回 風力発電コンペWINCOM2024

令和6年11月3日(日)に、津田沼校舎37号館8階にて第17回風力発電コンペWINCOM2024が開催されました。

今大会は24チームに参加いただき、発電量部門・エネルギー利用部門ともに大盛況のうちに無事終わることができました。

日本大学生産工学部校友会賞には、東京都立立川高等学校チームの「まわるんです」、日本風力エネルギー学会 長井浩記念賞には、東京都立多摩工科大学チームの「多摩工科風車2024」、最優秀賞には山形県立山形工業高等学校チームの「BLACK LILY β」が選ばれました。また、今大会より新たに設けられた低風速域でいかに効率よく発電させるかを競う低風速評価賞には山形県立山形工業高等学校チームの「BLACK LILY α」が選ばれました。

来年度も、さらに盛大な大会となるようスタッフ一丸となって取り組む所存ですので、今後ともご支援の程宜しくお願いいたします。



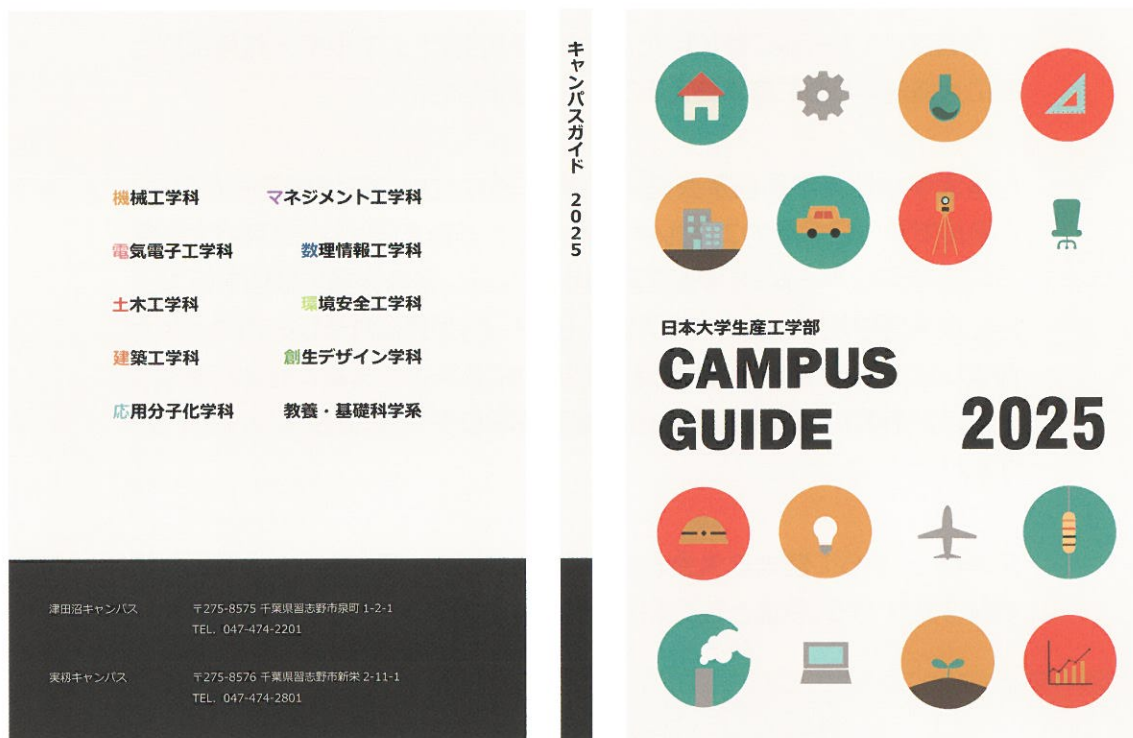
全体集合風景



校友会賞受賞チームの風車

# 2025年度 キャンパスガイド表紙デザインコンペ最優秀賞決定!

2025年度キャンパスガイド表紙デザインコンペの表彰作品が決定いたしました。最優秀賞の作品は令和7年度入学者へ配付するキャンパスガイドの表紙のデザインになります。



最優秀賞「多彩な学びのキャンパス」創生デザイン学科4年 岸井陽香さんの作品

## 2025キャンパスガイドデザインコンペ審査結果

作品名	氏名	学科	学年	結果
多彩な学びのキャンパス	岸井 陽香	創生デザイン学科	4	最優秀賞
創ってみる?君だけのキャンパスライフ	伊東 咲奈	創生デザイン学科	3	優秀賞
日常のきらめき	川上 菜利	創生デザイン学科	3	優秀賞
日々を綴るキャンパスダイアリー	卯嶋 優	建築工学科	4	佳作
重なる色とひと	小川 友暉	建築工学科	3	佳作
向上	安齊 千尋	創生デザイン学科	3	佳作
生産工ライフ	大前 凜	創生デザイン学科	3	佳作
My Highlight	栗飯原 暉	創生デザイン学科	2	佳作
変わらず商店街の先に構える校舎	柴田 龍之介	建築工学科	4	校友会賞
未来を“つくる”	中原 一樹	建築工学科	4	校友会賞
しゃぼんに期待を乗せて	木村 光	建築工学科	3	校友会賞
線の混ざり	山田 朋輝	建築工学科	3	校友会賞
紅	坂本 萌香	数理情報工学科	3	校友会賞
えん	稲垣 友亮	創生デザイン学科	4	校友会賞
声	今田 千代子	創生デザイン学科	4	校友会賞
呼吸	小形 菜摘	創生デザイン学科	4	校友会賞
生産工学、みつけた!	岡本 真歩	創生デザイン学科	3	校友会賞
Industrial Manual	芝 武尊	創生デザイン学科	3	校友会賞
りんご	西田 穂乃花	創生デザイン学科	3	校友会賞
成長するキャンパス	上原 弘暉	創生デザイン学科	2	校友会賞
ポップで楽しい学生生活	櫻井 帆夏	創生デザイン学科	2	校友会賞
Go!	山本 結愛	創生デザイン学科	2	校友会賞
サテライト	渡邊 陽久	創生デザイン学科	2	校友会賞

## 令和6年代議員総会報告

令和6年度日本大学生産工学部校友会代議員総会及び懇親会が2024年6月15日(土)、4年ぶりにご来賓の方々をお招きして市川グランドホテル(千葉県市川市)にて開催されました。

当日は136名の代議員のうち16名の新代議員の参加があり、司会は総務委員長の小松博先生によって進められました。総会に先立ち、昨年度お亡くなりになられた校友の皆様に黙とうを捧げました。

開会の辞は三浦俊宏電気電子部会長が務められ、そして梅谷純生会長による挨拶が行われました。

議長は坂本光弘機械部会長が務め、事業報告は梅谷会長、そして決算報告は渡邊昭廣財務委員長による報告、監査報告は大澤慶吉監査委員長によ

る報告が行われ、満場一致で承認されました。議事終了後、若林敬造マネジメント部会長による閉会の辞で無事、令和6年度日本大学生産工学部校友会代議員総会を終了しました。

総会後の懇親会では、総務副委員長の北野幸樹先生の司会で始まり、梅谷会長、澤野利章生産工学部学部長の挨拶、また来賓を代表して兼板佳孝日本大学副学長・校友会副会長ならびに金澤宏昭校友会本部事務局事務長よりご祝辞をいただき、渡邊優生産工学部事務局長の乾杯のご発声にて賑やかに祝宴が始まりました。

久しぶりに懐かしい校友と話す会話は多くの笑顔に満ちており、会話が尽きず盛会のうちに中締めを迎えました。



梅谷純生  
生産工学部校友会会長のご挨拶



澤野利章  
生産工学部学部長のご挨拶



兼板佳孝  
日本大学副学長のご挨拶



渡邊優  
生産工学部事務局長の乾杯のご発声



## 第38回 日本大学工科系校友会連絡会

第38回工科系校友会連絡会が令和6年8月24日(土)、日本大学生産工学部39号館6Fスプリングホールで開催されました。

4学部連絡会は5年ぶりに開催され各学部校友会より約50名が参加し、工藤勝輝工科系校友会幹事の幹事会報告にはじまり、各学部校友会会長の近況報告、そして今回の話題「本部からの還付金

減額による影響について」多くの意見が出され、会議は時間いっぱい迄交わされました。また、39号館の食堂で開催された懇親会には各学部から来賓をお招きし、当番校である梅谷純生生産工学部校友会会長の挨拶、野澤達也生産工学部事務局長の乾杯のご発声のもと和やかにご歓談され、盛会の中、次回の当番校である澤田康裕薬学部校友会会長のご挨拶で閉会となりました。



生産工学部校友会 梅谷会長 近況報告



生産工学部 野澤事務局長 乾杯挨拶



## 母校を訪ねる会

生産工学部では、毎年11月(2024年度は11月3~4日)に学部祭として「桜泉祭」を開催しています。その期間内において例年、生産工学部と生産工学部校友会共催のもと、『母校を訪ねる会』を開催しています。

今年は、昭和47年・昭和48年・昭和57年・昭和58年・平成4年・平成5年・平成14年・平成15年・平成24年・平成25年の卒業生を対象として、ご家族共々ご来場賜り、懐かしいキャンパスの見学や後輩の主催する桜泉祭に参加いただき、そして39号館(60周年記念棟)2階食堂(Creation Commons)において、教職員との懇談や卒業生間の旧交を深める催しとなっています。

当日は、卒業生161名(招待年卒業生及びその他卒業生)、教員OB14名、校友会役員11名、他現役教職員の方々にも多数ご参加頂き、盛会に終了いたしました。

卒業生の皆さんは、桜泉祭(学部祭)を懐かしみつつ、今後も発展を続けるキャンパスを味わいながら、在学当時の先生方をはじめ教職員との懇談を楽しみ、卒業生相互に旧交を温め合い、当時の想いで話に花を咲かせました。



# 在校生紹介

## 機械工学科

蘇 梓陽

私は、マレーシアのペラ州から出身の留学生です。小さい頃からロボットや機械などが好きで、将来の自分はそれらに関わる仕事をしたいと思いました。高校生の時、私はロボコンに没頭し、高校の代表として初のロボコンに参加し、州1位を獲得、マレーシアの全国大会まで進出することができました。その大会がきっかけで、私はロボットや機械設計にさらに熱意を持ってきて、機械エンジニアになることを確信しました。その夢を実現するために、私は日本に留学してきて、日本大学生産工学部の機械工学科に進学しました。

なぜ日本へ?その質問に対して、私は今までもずっとその答えを探しています。母国で高校2年までの授業しか受けなかった私は、大学1年生になってから、いきなり高3数学から授業を受けて、本当に大変でした。さらに、入学時に受けた学力確認テストの成績ももちろん予測通りに悪かったため、大学のRobo-Beプログラムの選抜にも落ちました。その時の私は、人生の中で初めて絶望的な憂鬱さを感じていました。ここで諦めるか?母国へ帰るか?という疑問が頭をよぎりましたが、私は残ることを選びました。その後の毎日は、「できないならもっと努力せよ」という考えで、人より倍の時間をかけてでも必ずすべての実験レポートを完成させ、数3を基礎から学び、授業の演習問題を繰り返し解き、自分が納得できる成績を取るまで必死に頑張りました。

私の大学生活は、簡単な道ではありませんでしたが、楽しいことも沢山ありました。大学で一番楽しかったことは、3年生の頃に受けたプロジェクト演習の授業でした。その授業がきっかけで、私は「頑張ったからこそ必ず成功するとは限らない」ことを学びました。当時、私はチームリーダーとして、4人の友達と一緒にレスキューロボットの製作に全力で取り組みました。高校時代に参加したロボコンの経験と自身のプログラミングスキルを活かして、ロボットの製作から無線操作アプリの開発まで率先して行いました。私達は多方向から設計を考え、大会で優勝することを目標にするとともに、ロボットの音声操作まで難しいアイデアへの挑戦も目指してきました。しかし、残念ながら、私達は最後の大会では2位しか取れませんでした。しかし、チームとしても個人としても成長できたと感じました。誰でも優勝したい、1位になりたい、と考えますが、すべての事が望み通りに進むのは人生ではありません。頑張ったからこそ必ず成功するとは限りませんが、無意味ではないと私は思います。

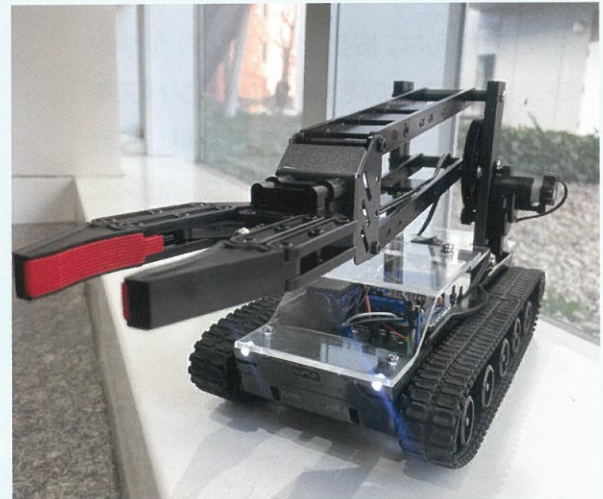
大学4年生になって、私は学年第一グループの成績で風間研究室に配属されました。これは大学3年間の努力から得た1つの成果だと思います。研究室では、私は強化学習を用いたロボットアームについて研究を行いました。大学院への進学を選ばなかった私は、1年間でこの研究テーマで良い成果が出せるように目標を立てました。それはかなり難しいことですが、不可能ではないと思いました。その意識で、私は毎日一生懸命研究を行い、実験で何十から何百回までの失敗を味わい、成果に向かって一步一步前進しました。数か月の努力で、私は少しでも自分が納得できる成果を出し、卒業研究の中間発表で優秀ポスター賞を受賞しました。そして、就職活動では、私は自分の熱意がある職種、活かしたい知識、これから学びたいこと、自身の強みと弱みなどを考慮しながら、企業へ応募を行いました。私は、自分の興味がある仕事に対して全力で頑張れる人間なので、それを誠実に企業に伝えることができ、望んだ企業から内定を頂きました。この4年間は本当に大変でした。しかし、私は人としてさらに成長できたと感じました。これから社会人になる私は、大学4年間で学んだ知識と経験をすべて活かして、優秀なエンジニアになるように頑張っていきたいと思います。



卒業研究の日々



卒業研究中間発表時の風景



プロジェクト演習時に製作したロボット

## 在校生紹介

### 電気電子工学科

小林 陽太

私は、幼い頃から自動車をはじめとする乗り物に強い興味を抱き、その開発に携わることを夢見てきました。その夢を実現するため、「モノづくりそのもの」を学ぶことのできる日本大学生産工学部の電気電子工学科に進学し、モノづくりの世界に飛び込みました。

入学当初は、新型コロナウイルスが流行もあり、想像していた大学生活とは大きく異なるスタートとなりました。キャンパスで友人と過ごし、活気あふれる大学生活を送るはずが、実際には自宅パソコンに向かい、オンライン授業を受ける日々が続きました。当初はいつまでこの状況が続くのかという不安を抱え、友人との触れ合いの機会が減った寂しさもありましたが、オンライン授業にも良い面があることに気づきました。

自分のペースで学習できたり、場所を選ばずに勉強できたりと、新しい学び方を見つけることができました。大学で一番熱中したのは、学生フォーミュラというサークル活動です。学生フォーミュラとは、各大学の学生で一つのチームとなり、レーシングカーの設計・製作を行います。それだけでなく、コストやプレゼンテーションなどの書類や、ご支援いただけるスポンサー様を探すチーム活動など、レーシングカーの製作を通じて、ものづくりに関わるすべての事に挑戦し学びを得る活動です。



サークル活動の作業風景

特に印象に残っているのは、チームリーダーとして部員をまとめ、新しいエンジンへの変更挑戦したことでした。結果は必ずしも成功とは言えなかったものの、この経験を通して、困難に立ち向かう力や、チームワークの大切さを学びました。仲間たちと一つの目標に向かって努力した日々は、私にとって一生忘れられない宝物です。

大学生活を通して、私は様々なことを学びました。オンライン授業では、自己学習能力や問題解決能力を養うことができました。また、学生フォーミュラサークルでは、リーダーシップやチームワークの重要性、そして目標に向かって努力することの大切さを学びました。これらの経験は、私を大きく成長させてくれたと考えています。

将来は、大学で学んだ知識や学生フォーミュラで培った経験を活かして、自動車業界で活躍したいと考えています。特に、電気自動車や自動運転車といった最先端の技術開発に関わり、より良い社会の実現に貢献したいと考えています。

新型コロナウイルスという予想外の出来事が起こりましたが、私はこの経験を通して多くのことを学び、成長することができました。大学で得た知識と経験を活かし、自分の夢に向かって進んでいきます。



大会中

### 土木工学科

鈴木 御和子

私の夢は土木構造物の設計をすることです。この夢を抱いた由来は私の叔父が建設会社に勤めていた影響であり、生活に必要な不可欠である社会インフラに興味を幼い頃から持っていました。社会基盤を作り、人々の生活を守っていくこの業界にあこがれを抱き続け、大学では土木工学科を専攻しました。入学当時はコロナ禍であり、オンライン授業が多く、新しい生活に加えクラスメイトと仲良くなれるかとても不安だったことを覚えています。学年が上がるにつれコロナ禍も落ち着き、徐々に増えていった対面授業で新しい友人もでき、学ぶ喜びを感じながら、たくさんの思い出を4年間で残すことができました。

私の中で特に大きな思い出として部活動があります。高校時代にマネージャーとして野球部に所属していたこと、知り合いからの誘いがあったため大学でも続けることにしました。ただ、高校の頃とは違い、大学では専門知識を学んでいくため学業をおろそかにしたくない思いが強く現れました。そこで部員へのサポートを積極的に行いながら、合間を縫って課

題を進め学習していきました。結果として、部員たちと心から打ち解けあうことができ、さらに学業も目標の成績を維持し続けることができました。自分の目標を達成しながら、仲間たちと切磋琢磨した日々は大切な宝物です。

日々を楽しく過ごしていくうえで私は縁に恵まれていたと思います。コロナ禍の不安が多い時から指導してくださった教授たちや、時には遊びながら共に学んできた友人たち、就職活動を手助けしてくださったOBOGの方々には大変お世話になりました。皆様が真剣に向き合っていたのおかげで第一志望の会社から内定を戴くことができました。周囲のサポートのおかげで私は辛い時期も乗り越えられ、全力で4年間を突き進めました。私は最後の学生生活であるこの4年間を、周囲の方々への感謝を決して忘れることはありません。インフラを支える技術者への道はようやく一歩目を踏み出したばかりです。身につけた知識と経験をさらに成長させて今後も邁進してまいります。

## 在校生紹介

### 建築工学科

府金 詩子

私は在学中、学業に加え、サークル活動や自主創造プロジェクトに力を入れてきました。サークルは入学時から3年生3月までBlue Swing Jazz Orchestraというジャズサークルに所属していました。

当初はコロナ禍の影響で練習環境が整わず、唯一の縦の繋がりであった先輩との交流も思うようにできず、明確な目標もないまま練習する日々が続きました。そのまま先輩方は引退し、2年生の4月からは自分達の代が部を引っ張る立場になり、右も左も分からないまま私はバンドミストレスに就任しました。感染対策として練習時間の制限が続き、思うように全体練習も進められない毎日が続きました。そんな中、入部してから初めての本番の日程が決まると部全体の士気も上がりました。曲の完成度を上げるために私も指示出しを工夫したり練習頻度を見直したりしました。その結果、桜泉祭で無事に演奏しきることができました。私個人としても多くの学びを得ることができました。

3年生の時に行った『日本大学自主創造プロジェクト』では、当初のテーマや活動内容はスムーズに決まりましたが、その後の話し合いでは実現性

に悩まされました。当初の計画は見込みが甘く、準備方法や活動スケジュールに多くの変更が必要になりました。ですが、メンバーやファシリテーターと協力を重ねながら進めることで、12月に発表を終えることが出来ました。この活動では多くの反省点がありましたが、それらを糧に自分のスキルをさらに向上することができたと感じています。

これらの経験を通じて、何かを作り上げる楽しさやまとめ上げることにやりがいを感じるようになり、就職は施工管理職を志望することに決めました。エントリーシートを書く際には自分自身の能力や気持ちに向き合いますが、自分に自信がなく消極的な思考が多かった以前の私ならどれだけ時間をかけても書けなかったかもしれません。周りの人々に支えてもらいながら事を成し遂げた経験が大きな強みとなり、自分に自信を持って就活に取り組むことができました。その結果、無事に第一志望の企業から内定を頂くことができました。多くのことを経験し成し遂げられたのも、友人や研究室の先輩方、先生方の支えがあってこそです。この感謝の気持ちを忘れず、4月から社会人として頑張っていきたいと思います。



自主創造プロジェクト



サークル初めての本番

### 応用分子化学科

安東 桃花

大学生活で大切にしようと思ったことが2つあります。それは、「やってみようと思ったら、挑戦してみる」、「失敗を恐れないようにすること」です。今まで、やってみようと思うことを見つけても、もしかしたら上手くいかないかもしれない...と思い込むなど何かしらの理由をつけて挑戦する機会を逃してしまうことがありました。そんな自分を大学生活では変えたいと強く思いました。大学生活で力をいれたことは、「学業とアルバイトの両立」、「桜泉祭の運営スタッフの取り組み」です。

大学の学費や生活費は、簡単に出来る金額ではありません。遊びやアルバイトばかりになり、学業を疎かにしてしまうのはもったいないと思いました。友人と共に多くの講義を受けることで、幅広い知識を身につけることができ、卒業までに145単位履修できる見込みとなりました。2年次以降の実験(実技科目)では、実技だけでなく目的を考えること、考察などを記載する必要がありました。自分が納得のいくまで何時間も試行錯誤したレポートづくりは、とても大変でしたが確実に力になったと思います。アルバイトは、社会経験が得られる貴重な場所で私に大きな影響を与えました。様々な職業から得られる経験は違うのではないかと感じた私は「小売業」、「飲食業」、「サービス業」の3分野のアルバイトを行いました。それぞれのアルバイトは求められることが様々でした。時には失敗してしまうこともありましたが、お客様に喜んでいただけたときは嬉しく、働く楽しさを知ることができました。アルバイトの経験は、将来やりたいことが明確になったきっかけとなりました。

桜泉祭の運営スタッフは1年生のときから所属しました。対面開催された2、3年生の時は、主に食品提供団体に使用する機材の手配を行いました。コロナ禍が明け、所属人数が増え、先輩から後輩までよりつながりが

できたのが嬉しかったです。1人ではできないような仕事量でしたが、全員で協力し桜泉祭を成功させるためにかけた長い時間は、大学生活で忘れられない思い出になりました。

とても充実した日々を過ごしながら、私は1つの夢を見つけることができました。「自分の好きなお店に、自分が開発に携わった商品を並べてお客様の手にとっていただく」ことです。一緒に楽しい時間を過ごしてくれた友達、大学の学費を出してくれた家族には感謝の気持ちでいっぱいです。この夢をかかなえるために、「やってみようと思ったら、挑戦してみる」ということを大切に努力し続けたいと思います。



桜泉祭実行委員会

## 在校生紹介

### マネジメント工学科

齊藤 光平

#### ●学部・大学院における研究活動

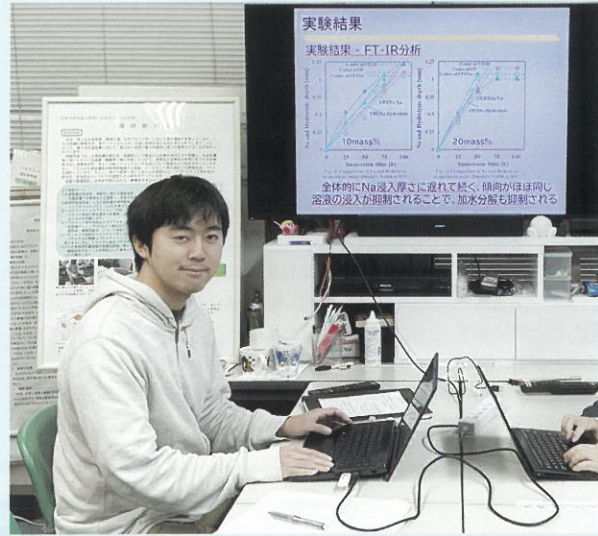
大学院では、ゼオライトという鉱物をプラスチックに添加した複合材料を作製して、ゼオライトの働きにより薬液環境での耐久性向上やリサイクルにつなげる研究を行っています。プラスチックの寿命と材料費や施工費の観点から、マネジメントの分野と、工学の要素を含む材料の分野の橋渡しができるかと考えております。また、2021年夏に開催された学会での発表にて、若手技術者優秀発表賞をいただくことができました。

#### ●研究を通して学んだこと

私が研究を通して学んだことは大きく二つあり、一つ目は、間違っている可能性はあったとしても、現在の意見や考えを、しっかり持って挑戦することでした。私が行った研究の結果から、材料の劣化が複雑な挙動を示すことがわかり、耐食性の向上か、あるいは劣化の促進か、性質をどう評価するかを非常に悩みました。しかし、目的である耐食性向上に対して実験・検討を続けることで、耐食性向上につながる結果を見出し、考察を深めることができ、さらに、新しい材料の可能性につなげることができました。また、劣化の促進に関しても、リサイクルという別の観点から考えれば、新しい材料として利用できる可能性を見出せました。この経験から、目的をしっかりとって挑戦することで諦めず行動し続けることができ、目的の真逆の性質も、他に活かすことができました。二つ目は、一人でできることは限りがあるから、様々な人の力を借りるということでした。

私と同じ、ゼオライト充填プラスチック材料の分野で研究をしている後輩がおり、自分が研究で行っている薬液環境とは別の環境で材料劣化の評

価を行っていました。彼と、環境別のプラスチックの劣化の情報交換を行うことで、劣化挙動についての考察を深め、研究をより良くできました。また、それだけではなく、先生や別の後輩との、コミュニケーションを取る場、きっかけともなりました。



研究打合せをしているときの写真

### 数理情報工学科

藤井 和希

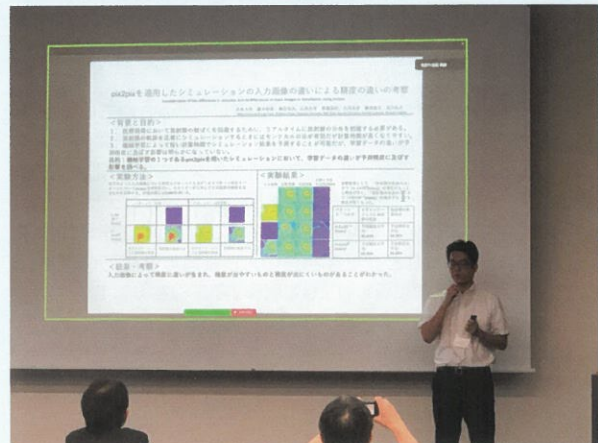
私が大学に入学した当初、正直なところ明確な目標や将来像はありませんでした。情報系の分野はさまざまな産業や業界につながりをもつことができるため、まずは視野を広げることが大切だと考えました。そこで、読書の習慣を身につけることにしました。図書館に通い、「情報が他の分野にどう関わっていくのか」を網羅的に理解することを目標とし、自分の学科に関連しない分野についても広く浅く本を手に取りました。特に、経済や歴史などの分野を横断した知識を得ることを意識しました。経済の本からは、労働力の不足がどれほど深刻であるかを学び、製造業や介護福祉、サービス業では自動化需要がさらに高まると予測しました。また、歴史の本を通じて、海外での産業発展がどのように進んできたのかについて理解を深め、発展途上国を中心に製造業の産業用ロボット分野がさらに成長すると感じました。

このような学びを経て、「IT分野で働きたい」という漠然とした将来像から、「大学で学んだ情報系の知識を活かして、産業用ロボット分野でロボットビジョンの画像認識の開発に携わりたい」という具体的な目標を持つようになりました。結果として、ロボットの制御に携わる企業に内定を頂くことができました。また、大学生だからこそできる経験を積みたいとの思いから、学会発表に挑戦しました。慣れない研究活動の中で、担当教員のサポートを受けながら無事にポスター発表を行うことができました。大学のゼミ内での発表とは異なり、初対面の専門家や大学院生に自分の研究内容を説明するのは非常に緊張しました。

この経験を通じて、学会の発表において研究者に求められる

のは研究内容の質を高めることだけでなく、威厳のある先生の前でも落ち着いて論理的に説明することだと学びました。卒業後は大学院には進まず民間企業に就職する予定ですが、学会発表の準備を通じて「どこに新規性があるのか」を考えたり、上手く説明する方法を模索したりした経験は必ず活かされると信じています。

大学生活を通じて、さまざまな分野の専門書を読む機会や、担当教員のサポートを受けて学会発表を経験できたことは非常に貴重でした。卒業まで残り少ない時間ですが、家で積読している本を読むことや、時間のある学生のうちに企業の工場見学やInter BEE等の技術系イベントなどに参加して、本だけでは得られない知識を深めたいと思います。



ショットガンセッション

## 在校生紹介

### 環境安全工学科

伊藤 万莉恵

3年生になるタイミングで、私はブリーチしていた金色の髪を黒髪に染めました。就職活動が始まるから、そんな安直な理由です。

今回は4年間の学校生活で記憶に残っている就職活動、研究室活動について振り返り、当時そして現在私自身が感じた素直な気持ちを書こうと思います。この文章読んでいただいた皆様に何か感じていただけたら嬉しいです。

夏に行くインターンシップの選考では、最初にエントリーシートを書かなければなりません。そこには学生時代に頑張ったことを書く欄がありましたが、その際に初めて私は自分の大学生活を振り返り、他の人に比べると人以上に頑張ったと誇れることがないなと思いました。最初は、多くのインターンシップに申し込み、面接やグループディスカッションに参加しました。そこで、積極的に他大学の学生と接し、就職活動の意識の高さを思い知らされました。自分が受けている会社に本当に就職していいのかわからなくなり迷走し多くの業種を受けてしまいました。今思えば当時の私は企業研究が追いつかなくなり、いっぱいいっぱい状態になっており、失敗したと思います。こうした経験も踏まえた上で、無事に就職活動を終えることができました。

つぎに、研究室での活動について話します。私は、ものづくりの基礎的な内容の研究に興味がありました。希望し所属された研究室では、協調性を

大切にしており、そういった方針に共感したことも研究室を選択した要因の一つです。4年生になるまで話したことがなかった人も中にはいましたが、所属された仲間はみな気さくですぐに打ち解けることができました。研究では、個人で与えられたテーマについて先生と相談しながら進捗させていく方針で、時には仲間と協力し合い、励まし合いながら楽しく行うことができている。また仲間同士とはこれまでに、山登り、バーベキューやコテージへの宿泊旅行など活動を学生主催で行ってきました。こうした仲間とは社会人になってからも、先生も含めて定期的に会いたいと思う仲間たちです。

今これを書いているのは4年生の10月で卒業までは約5ヶ月あり、正直自分が卒業するイメージは全くつきませんが、きっとこれまでの3年間のように一瞬で過ぎ去ってしまうのだと思います。他人から見たらなんてことない大学4年間に見えてしまうかもしれませんが、私はとても貴重で楽しい4年間が過ごせたと思います。そのように、卒業式で言えるよう、残りの5ヶ月間も必死に、小さな幸せを見つけながら、見逃さないように、楽しく過ごしたいと思います。将来自分がこの文章を読んで、大学生活が楽しかったと思っていることを想像しながら、締めたいと思います。これまでにさまざまな面でお世話になった両親、先生方へは感謝の気持ちでいっぱいです。大変お世話になりました。

### 創生デザイン学科

岸井 陽香

私はデザインやものづくりに興味があり、将来はそういった仕事に就きたいと考えていました。しかし、あまりセンスや画力には自信がなかったためセンスで勝負するのは難しいと諦めていました。そこで、工学的な知識を有することで違う強みを得られると考え、創生デザイン学科への入学を決意しました。

大学生活のスタートはまだコロナ禍であり、やりたいことが自由にやれる状況ではありませんでした。このままではもったいないと感じた私は、一年生の終わりに津田沼航空研究会へ入部しました。このサークルは、毎年夏に行われる鳥人間コンテストへの出場を目指して機体の制作を行う団体であり、自分の興味や目指す方向性にぴったりだと思いました。入部後は毎日のようにサークルに参加し、先輩方の作業を見て学び、手伝いをする日々でした。自分たちの手で一から飛行機を作るというのは今まで経験したことが無かったため、とても新鮮で興味深かったです。また、ものづくりに熱意を持ったメンバーに囲まれて過ごしているうちに、自分もものづくりに対してより熱心になっていきました。二年生からはサークルの代表として、作業だけでなく全体をまとめるながら機体制作を進めていきました。制作は一年にもわたる大きなプロジェクトであり、課題や他の活動との両立は難しいときもありました。また、飛行機の構造や空力などの知識も全くありませんでしたが、他学科の人たちと協力することでやり遂げることができたと思います。ものづくりの知識や経験だけでなく、学科・学年に捉われない様々な人との交流を通して知見を広げることができるのは、このサークルならではの醍醐味だと思います。

このような経験は私が今行っている卒業研究にも活かされています。私の研究は「フライホイール機構を用いたアシスト自転車の提案」をテーマに行っています。フライホイールという慣性モーメントを利用した電気を使わないアシスト機構を搭載するための自転車フレームのデザイン設計を行っています。本研究は、創生デザイン学科の他に機械工学科、電気電子工学科、建築学科など様々な学科の人と共同で進めています。3DCADだけでなく実際に板を加工して制作する工程もあり、自分の大学生活の集大成といえる成果物にしたいと思っています。

私はこの大学生活で様々なことを経験し、学んできました。この学びはとても身になったと日々実感しています。これからも自分の興味ややりたいことに真っ直ぐにチャレンジしていける人でありたいです。



制作機体飛行の様子



卒業研究の作業風景





# 学科ニュース

## 機械工学科

### 学生数

学部生853名 / 大学院生(前期)70名・(後期)2名

### トピックス

#### ①オープンキャンパス

7月14日(日)、8月4日(日)にオープンキャンパスを実施しました。定置型ドライビングシミュレータ、炭素繊維対応3Dプリンタ、落花生莢を利用した複合材料、学習支援パートナーロボット、新しいロケット推進技術、エンジンと微小重力実験装置などを展示し、機械工学科の最新の研究と学びが体験できる企画を実施しました。当日の様子は機械工学科のInstagram (@nichidai.seisan.kikai)や学科HPでも紹介させていただきましたので、ぜひご覧ください。

#### ②日本大学三島高校との高大連携講義を実施

日本大学三島高校様と「総合的な探究の時間」において、共同プロジェクト「CADを利用したロボット開発プロジェクト」を実施しました。1年間を通して、自分たちにとって必要なロボットを考え、CADを用いてモデリングや動き方を検討し、その結果を多くの方々の前で発表しました。「技術的なことだけでなく、チームワークなどの総合力を学ぶ機会の一助になれたのではないかと思います。



集合写真 日大三島



OpenCampus

## 電気電子工学科

### 学生数

学部生782名 / 大学院生(前期)45名・(後期)1名

### 人事

今年度は飯田和昌教授が学科主任、荒巻光利教授が専攻主任として学科・専攻の運営に携わっております。新任教員として野邑寿仁助助教、皆川裕貴助手が着任されました。

なお、昨年度は伊藤浩教授、新妻清純教授が定年退職されました。

### トピックス

皆川裕貴助手、荒巻光利教授らの成果「光渦によるドブラー分光法の測定自由度の拡張」が、日本光学会の学会誌「光学」第53巻第6号に、2023年の日本の光学研究を代表する成果として掲載されました。

「2023年 日本の光学研究」は、2023年に発表・刊行された研究を対象として、日本光学会の編集委員会選定委員会によって選ばれたハイライト研究です。

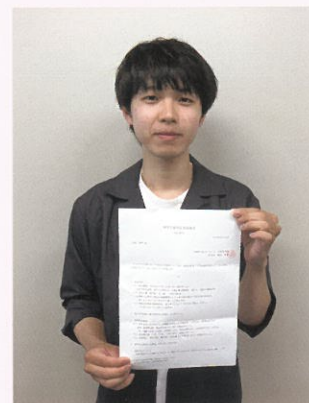
また、本学科小川研究室4年生の岡部優希君が、給付奨学金事業を実施している公益財団法人クリハラント記念財団の奨学生に採用されました。



野邑先生



皆川助手



岡部優希君

# 学科ニュース

## 土木工学科

### 学生数

学部生756名 / 大学院生(前期)35名・(後期)5名

### 人事

今年度、澤野利章教授が学部長に再任され、引き続き学科主任には佐藤克己教授、専攻主任に高橋岩仁教授が任命されています。また、本年4月には楊晨輝助手が着任され、加納陽輔准教授が教授に昇格されて教授11名、准教授3名、助教1名、助手1名の体制となっています。

### トピックス

おかげさまで、昨年度も就職内定率は100%を達成し、第一志望への就職率は85%を実現しました。皆様のご支援に改めて深く感謝申し上げますとともに、引き続き後進へのご指導をお願い申し上げます。

さて、今年度は校友のご支援により、ベトナムにおける「生産実習」を新たに展開することができ、3年生4名が発展目まぐるしいハノイに滞在し、約3週間にわたり貴重な実習経験を得ることができました。

さらに、「土木工学科イノベーションcommons」が4月にオープンし、新たな学習環境のもと、学生間の学び合いが一層活性化しています!



イノベーションcommonsの様子(セミナースペース)



海外インターンシップの様子  
(ベトナム・ハノイ)

## 建築工学科

### 人事

4月よりチェ・ホンボク先生が助教(構造系)、下田ありささんがJABEE助手として新たに着任されました。

### トピックス

2024年度日本建築学会設計競技「commonsの再構築ー建築、ランドスケープがもたらす自己変容」において、人見健太、栗山陸、斉藤未紗、三須隆大(M1)の「MCK BARUーwatering hole」が優秀賞を受賞しました。

また、幡野優香、渡邊健、石塚幸輝(B4)の「軌上に流離い」、藤林未来、高橋達樹、渡部峻(B4)の「廃棄野菜で繋がる湯仲間」、本田竜河、堀江琉太、吉田天音(B4)の「あしばぐらし」がタジマ奨励賞を受賞しました。

約170社の企業の協力のもと、3年生向けの業界研究と生産実習企業紹介を兼ねた「キャリアサポート」を5月・6月に計4回実施し、毎回約200名の学生が参加しました。



建築学会コンペ優秀賞受賞者



キャリアサポート

# 学科ニュース

## 応用分子化学科

### 学生数

学部生706名 / 大学院生(前期)74名・(後期)2名

### トピックス

#### 新入生学外オリエンテーション

新入生対象の学外オリエンテーションを4月10日に実施しました。前日まで荒天でしたが、実施日は天候にも恵まれクルーズ船で東京湾内を回りながら昼食をとりました。その後、アジア最大級のミニチュアミュージアムのスモールワールズに向かいました。スモールワールズでは、世界で取り組まれているSDGsに関連するクイズラリーなどを実施しました。入学間もない学生間の交流を深める機会となりました。卒業までの4年間、充実した学生生活を送れることを期待しています。

#### 3年次設置実習科目スタート

令和4年度入学生よりカリキュラムが変更となり、今年度3年次設置科目の実習科目「創造化学実習・化学プロセス実習」がスタートしました。2年次設置の実習科目から継続して「起こっている化学現象を理解するための演習⇔理解したことや考えたことを実証するための実験」を1つの科目の中で有機的に結びつけることで、知識(理論)と経験(実践)を繰り返しながら主体的な取り組みと探究心の醸成を目指す科目となっています。教員がアドバイスをしながら、グループ内で実験条件を選定するなど学生が主体的に取り組んでいます。



## マネジメント工学科

### 学生数

学部生751名 / 大学院生(前期)21名・(後期)6名

### 人事

権善喜先生が令和6年4月1日より助教として着任いたしました。教員構成は、教授10名、准教授1名、専任講師が1名、助教が2名、助手が1名です。

### トピックス

学生構成は学部生751名、大学院博士前期課程21名、大学院博士後期課程6名(社会人4名を含む)です。新入生を対象に、親睦を深めるためオリエンテーションとして成田山新勝寺の周辺でフォトアドベンチャーを実施しました。6/15のスポーツ大会では、学生が力を合わせて当学科が総合優勝をしました。8/19に大前先生や豊谷先生のAIによる医工連携の研究事例が、オンラインメディアAI総研において紹介されました。その他、学科内の紹介や学科に関する内容についての最新情報はInstagramやXなどのSNSでも随時投稿しています。大学院生や教員の研究活動も活発に行われ、大学院生や教員が国際会議などで授賞することも増えており、学科ホームページの学科ニュースに掲載しています。



成田山でのオリエンテーション



スポーツ大会総合優勝

# 学科ニュース

## 数理情報工学科

### 人事

令和6年3月に、古市昌一教授がご定年を迎えられました。古市先生は平成20年から16年間専任教員として教育・研究に邁進し、多数の卒業生・修了生を輩出されました。4月からは、特任教授として引き続き学生指導に当たってまいります。令和6年4月には、財津康輔先生が助教として着任されました。ゲームの社会的活用を主な研究テーマとしており、特にボードゲームを用いた学習に関する効果検証等を行っています。

### トピックス

6月15日に実務キャンパスでスポーツ大会が実施されました。大縄跳びでは、1分間で98回飛んで全体2位の好成績になりました。はじめてとは思えない息のあった跳躍に、先生や学生たちからの応援の声にも熱がこもっていました。教員チームで数回の先生も競技に参加し、いつもとは違う姿を学生に見せました。スポーツ大会を通じて、学科の教員・学生間の距離が縮まったと思います。

この日のために、数理情報工学科の校友会(OB・OG)から学科カラーである青のTシャツが寄贈されました。数理情報部会の皆様本当にありがとうございました。



財津先生(左)と古市先生(右)



大縄跳びでの息のあった跳躍

## 環境安全工学科

### トピックス

令和6年4月に114名の新入生を迎えました。4月には学外オリエンテーションを行い、学生間での交流を深めました。東京タワー近くの芝公園をスタートし、クイズを解きながらゴールのスカイツリーを目指すフォトアドベンチャーを実施しました。クイズは、難しかったようですが、その分、友人とクイズに取り組むことで交友が深まり楽しかったようです。

人事では4月より新任教員として齋藤郁助教が着任され、小森谷友絵准教授が教授、亀井真之介専任講師が准教授、外山直樹助教が専任講師に昇格されました。

また、学生生活を中心とした内容を学科のInstagramから配信しています。これまでに授業風景や1年生オリエンテーションの様子などの各学年でのイベント、研究室での課外活動・レクリエーションなどを中心に幅広く投稿しています。今後はより一層リアルな学生生活をお届けするために、お昼休みの風景や研究室の日常なども発信して行く予定です。



学科Instagram

オリエンテーションの様子

# 学科ニュース

## 創生デザイン学科

### 学生数

学部生593名

### 人事

令和6年度から助手として、早川健太郎先生が着任いたしました。



早川健太郎先生

### トピックス

7月にフランスで開催されたApplied Human Factors and Ergonomics主催のAHFE International Conferenceにおいて、吉田悠専任講師、大学院生 池田大起さん、鳥居塚崇教授がBest Paper Awardを受賞しました。

また、9月には、千葉市役所本庁舎イベントスペースにて「花見川団地デザイン制作展」を開催し、多数の方のご来場をいただきました。

創生デザイン学科では、千葉市様、UR都市機構様、(株)良品計画様、(株)MUJI HOUSE様のご協力をいただき、花見川団地や隣接する花島公園を対象に、地域生活の活性化を目的とした演習授業を行っています。今回は、3年生を対象とした「デザイン製図2(空間)」と2年生を対象とした「プロトタイプング演習」の課題制作物の中から、優秀作品を数点選び展示を行いました。このように創生デザイン学科では、実際の現場の実態や生活者のご意見を大切に本質的な課題を探り、より良いデザインにまとめることを大事にしています。



花見川団地に向けたベンチデザイン



千葉市役所での展示

## 教養・基礎科学系

### 人事

令和6年度では、大熊康典教授が主任として教養・基礎科学系の運営に携わっております。今年度4月より、安田知絵専任講師が准教授に、高橋智輝助教、森健太郎助教、柴山均助教がそれぞれ専任講師に昇格されました。令和5年3月31日に山形治江教授が定年を迎えられ、同年4月1日に石川将吾助教(情報)、井上翔太助教(数学)、中山義久助教(心理学)、森下正昭助教(英語)、劉麗鳳助教(教職)、渡部洋(情報)の6名が着任されました。令和6年度の教員構成は、教授15名、准教授15名、専任講師4名、助教10名となります。

### トピックス

7月14日、8月4日のオープンキャンパスにおいて、本学部独自の教育プログラムであるELサイクルをベースにした科目を紹介する「EL studio」に参画しました。これまでの成果を踏まえ、TBL・PBL型の横断科目「エンジニアリングスキル」「生産工学とSDGs」「工学基盤演習」や、チームでディスカッションを繰り返しながら試行錯誤することで問題解決力を養う実験科目「工学基盤実験A」「工学基盤実験B」の内容を模擬体験できるように工夫した展示は、来場者に大変好評でした。7月14日には大貫進一郎学長が来訪され、本学部の取り組みをご覧になりました。



「EL studio」のスタッフ  
(前列向かって右から2番目が大貫学長)



「工学基盤実験A」の授業に熱心に取り組む学生



## 日本大学生産工学部 校友会誌「桜生工」

発行者：日本大学生産工学部校友会  
住 所：千葉県習志野市泉町1-2-1  
T E L：047-476-1140  
F A X：047-476-3510  
E-mail：nuitkoyukai@nippon.email.ne.jp  
W E B：www.seisan.nihon-u-koyukai.com

発行日：令和7年3月1日  
制 作：株式会社 仁友社  
住 所：東京都町田市森野2-31-17  
T E L：042-738-4300  
編 集：日本大学生産工学部  
校友会広報委員会

